

CLIPPEDIMAGE= JP361128047A

PAT-NO: JP361128047A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61128047 A

TITLE: DEVICE OF PREVENTING DEW CONDENSATION ON INNER
SURFACE OF PARTITION
WALL IN BUILDING

PUBN-DATE: June 16, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

MASUNO, YOSHIAKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

MASUNO YOSHIAKI

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP59248858

APPL-DATE: November 26, 1984

INT-CL (IPC): F24F007/04;E04B001/64 ;E04B001/70

US-CL-CURRENT: 454/341

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent dew condensation in a vent space formed in a partition
and

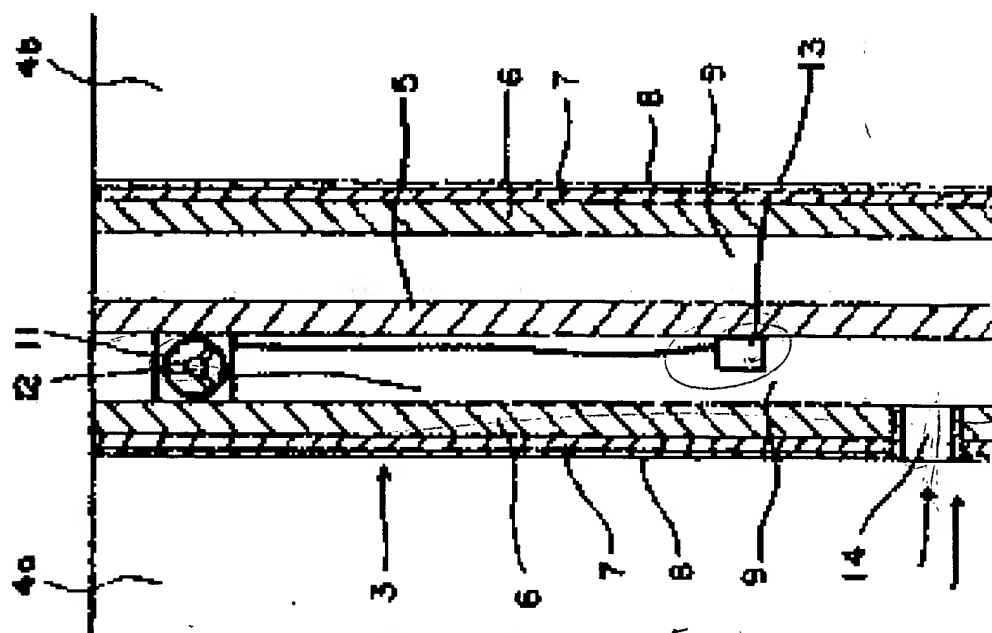
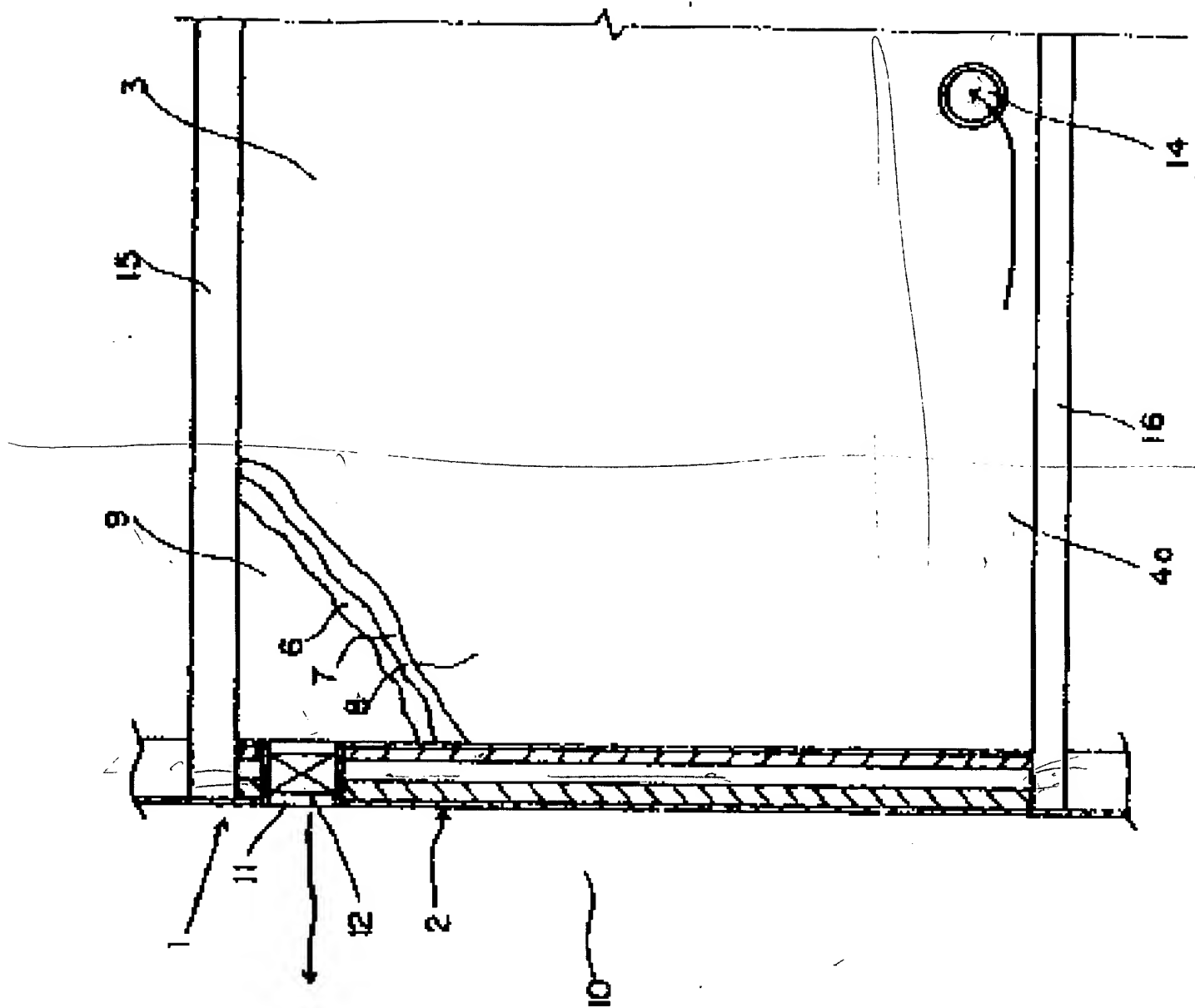
to enable to perform automatic ventilation of the interior of a chamber, by a
method wherein an inlet hole is formed in a partition wall a given distance
away from an outlet hole, and a ventilating fan, adapted to exhaust the air in
a vent space to the outside of a building, is located in the outlet hole.

CONSTITUTION: An outlet hole 11, adapted to communicate the outside 10 of a
building 1 with a vent space 9 and exhaust the air in the vent space 9 into the
open air, is formed in about the portion, where a partition wall 3 is
partitioned, of an outer wall 2, and a ventilating fan 12 is disposed therein.
The ventilating fan 12 is actuated when humidity in the vent space 9 exceeds a

previously determined value, and is switched ON and OFF by means of a humidity

sensor 13 situated in the vent space 9. An inlet hole 14, through which the vent space 9 and an interior 4a of a chamber are intercommunicated, is formed in the partition wall 3. The inlet hole is formed in a position located a given distance so away from the outlet hole 11 as to allow sufficient ventilation of the interior of the vent space 9.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio



WEST**End of Result Set**

Generate Collection

Print

*Brian Glessner
6X10 305-0031*

L2: Entry 1 of 1

File: JPAB

Jun 16, 1986

PUB-NO: JP361128047A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61128047 A

TITLE: DEVICE OF PREVENTING DEW CONDENSATION ON INNER SURFACE OF PARTITION WALL IN BUILDING

PUBN-DATE: June 16, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MASUNO, YOSHIAKI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MASUNO YOSHIAKI

APPL-NO: JP59248858

APPL-DATE: November 26, 1984

US-CL-CURRENT: 454/341

INT-CL (IPC): F24F 7/04; E04B 1/64; E04B 1/70

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent dew condensation in a vent space formed in a partition and to enable to perform automatic ventilation of the interior of a chamber, by a method wherein an inlet hole is formed in a partition wall a given distance away from an outlet hole, and a ventilating fan, adapted to exhaust the air in a vent space to the outside of a building, is located in the outlet hole.

CONSTITUTION: An outlet hole 11, adapted to communicate the outside 10 of a building 1 with a vent space 9 and exhaust the air in the vent space 9 into the open air, is formed in about the portion, where a partition wall 3 is partitioned, of an outer wall 2, and a ventilating fan 12 is disposed therein. The ventilating fan 12 is actuated when humidity in the vent space 9 exceeds a previously determined value, and is switched ON and OFF by means of a humidity sensor 13 situated in the vent space 9. An inlet hole 14, through which the vent space 9 and an interior 4a of a chamber are intercommunicated, is formed in the partition wall 3. The inlet hole is formed in a position located a given distance so away from the outlet hole 11 as the allow sufficient ventilation of the interior of the vent space 9.

COPYRIGHT: (C) 1986, JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-128047

⑤ Int.Cl.⁴F 24 F 7/04
E 04 B 1/64
1/70

識別記号

庁内整理番号

Z-6634-3L
7014-2E
7014-2E

④ 公開 昭和61年(1986)6月16日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全8頁)

⑭ 発明の名称 建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置

⑰ 特 願 昭59-248858

⑱ 出 願 昭59(1984)11月26日

⑲ 発 明 者 増 野 義 明 茅ヶ崎市富士見町1-7

⑳ 出 願 人 増 野 義 明 茅ヶ崎市富士見町1-7

㉑ 代 理 人 弁理士 池 田 宏

明 細 書

1. 発明の名称

建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置

2. 特許請求の範囲

建造物1を構成する外壁2に、間仕切壁3の内部に形成された通気空間9を建造物の外部10に連通させる排気孔11を形成すると共に、間仕切壁3に室内4aと上記通気空間9を連通せしめる為の入気孔14を、上記排気孔11に対して所定間隔を置いて形成し、更に排気孔11に通気空間9内の湿度があらかじめ定めた一定値以上になった時に作動して、通気空間内の空気を外部10に排気すると共に、室内4aの空気を通気空間9内に取り入れる為の換気扇12を配設したことを特徴とする建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置。3. 発明の詳細な説明

本発明は建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置に係り、更に詳しくは鉄筋鉄骨コンクリート造りの建物の室内間の間仕切壁内に形成された通気空間内の湿度があらかじめ定めた一定以上になっ

た時に、この通気空間内の空気を外部に排気すると共に、室内の空気を通気空間内に取り入れて、可及的に室内と間仕切壁内通気空間の温湿をバランスさせて間仕切壁内面に発生する結露を防止するように成した建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置に関する。

従来、壁面内に発生する結露を防止する為の手段は種々提案されている。例えば特開昭52-23810、特開昭52-111212、特開昭58-48045、特開昭58-159448、特開昭57-15740、特開昭57-24748、各号公報に掲載された手段である。

これら従来提案された結露防止装置はそれぞれ種々の利点を有するものではあるが、ほとんどのものは直接外に面した外壁か又は室内に面した内壁の内面に於ける結露防止装置であり、これらの壁面内に形成された通気空間の換気は建造物の外部から外気を取り入れて建造物の外部に排気している。従ってこの技術を建造物の内部を区画する為の間仕切壁内に形成されている通気空間の結露防止にそのまま適用した場合には、通気空間と間仕

切壁が区画している室内の温度差は換気をすればする程増大することになる。特に室内を空調している場合には上記温度差は増々大きくなってしまふ。このように壁面を挟んで一側と他側に温度差がある場合には結露しやすいので、通気空間内の結露を防止する為には、通気空間内の湿度が上昇した時に、通気空間内の換気を行なうと共に、通気空間内と室内の温度差を可及的に小さくすることが望ましい。

本発明は述上の点に鑑み成されたものでありその要旨とする所は、建造物を構成する外壁に、間仕切壁の内部に形成された通気空間を建造物の外部に連通せしめる為の排気孔を形成すると共に、間仕切壁に当該間仕切壁が区画した室内と上記通気空間を連通せしめる為の入気孔を、上記排気孔に対して所定間隔を於いて形成し、更に排気孔に通気空間内の湿度が任意の設定値以上になった時に作動して通気空間内の空気を建造物の外へ排気する為の換気扇を配設した建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置であってその目的とする所

ている。

上記は間仕切壁3の一例であり、本発明は間仕切壁3内に形成されたこのような通気空間9内の結露を防止する為に次のように成したものである。

即ち、通気空間9と接している外壁2に、より具体的には間仕切壁が区画されているあたりの外壁2に、建造物1の外部10と通気空間9を連通し、通気空間9内の空気を外気へ排出する為の排気孔11を形成し、ここに換気扇12を配設する。上記換気扇12は通気空間9内の湿度が予め定められた一定以上になった時に動作せしめられるものであり、通気空間9内に配設された湿度感知器13によってオン・オフ動作せしめられる。次いで間仕切壁3上に、通気空間9と室内4aを連通させる為の入気孔14を形成する。上記入気孔14を形成する位置は、通気空間9内の換気を十分に行なうことができるようにする為に、排気孔11に対して所定の間隔を置いて形成する。例えば排気孔11を通気空間9と接する壁面2の上

は、①間仕切内に形成された通気空間内の結露を防止することができると共に、②室内の換気を自動的に行なうことができ、更に③動作音が静かな建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置を提供するにある。

次に添付図面第1図～第3図に従い本発明の第1実施例を詳述する。

図中1は鉄筋鉄骨コンクリート建造物を示し、2は建造物の周囲に配設された外壁であり、建造物1の内側と外側を区画しているものである。上記外壁2によって外部と区画された建造物1の内部は、通常間仕切壁3によって複数の室4a、4bに区画されている。例えばマンションの互いに隣接する隣同志の間の仕切がある。上記間仕切壁3は第2図に示すように中央に堅固に形成された中央区画壁5が配設されており、該中央区画壁5の両側には、例えばウレタン等で形成された保温壁6、6下地壁7、7仕上げ壁8、8が順次配設されている。上記中央区画壁5と、保温壁6、6間は所定距離置かれ、それが通気空間9を形成し

部に形成し、入気孔14は室内の奥の方に形成する例を上げることができる。

尚、図中15は天井16は床面を示している。

次に上記実施例に基き動作を説明する。

本発明の結露防止装置は上記のように構成したので通気空間9内の湿度が予め定められた一定以上になった時にはその湿度を湿度感知器13が感知して、換気扇12を自動的に動作せしめることができる。換気扇12が湿度感知器13の検出によって動作せしめられると通気空間9内の湿った空気が排気孔11から外部10に排気されると共に、通気空間9内には入気孔14内を通して室内4aの空気が流入する。このようなメカニズムによって通気空間9内の湿った空気が外部に排出されて通気空間9内の結露を防止するものであるが、本考案の結露防止装置の場合には上記のように通気空間9内に室内4aの空気を送給するものであるから、結露防止効果が大である。

何故ならば、一般に結露は壁面を挟んだ一側と他側の温度差が大きい時に生じやすい。従って室内

4 b を空調した場合には、室内 4 a の温度と通気空間 9 内の温度差が大となるので、この温度差を解消しなければ、通気空間 9 内の換気をいくらしても根本的な結露防止にはならない場合が多い。

所が本考案の場合には通気空間 9 内に、室内 4 a の空気を送給するものであるから、通気空間 9 と室内 4 a 間の温度差を可及的に小さくすることができる。その為に通気空間 9 内に発生する結露を根本的に防止することができるわけである。

又、上記のように室内 4 a の空気を通気空間 9 内に送給するということは、室内 4 a の換気にも役立つ。室内 4 a を空調する時には一般的に、室内 4 a を閉め切っている場合が多い。その為に室内 4 a は換気不足になりやすいが、上記のように通気空間 9 内の湿度が上昇する都度換気扇 1 2 が動作せしめられて室内 4 a の通気を通気空間 9 内に取り入れるので、室内 4 a は自動的に換気されるようになる。更に上記換気扇 1 2 は間仕切壁 3 内に配設されているので、その動作音及び換気扇

を通しての外気音が室内 4 a に伝わる間に間仕切壁によって吸収され消音されるので、静かである。又換気される度に、室内のダストが通気空間 9 を通って排出されるので、マンション等のダストに由来するぜんそく病等を予防する場合にもよい。

次に添付図面第 4 図に従い本発明の第 2 実施例を説明する。

この例の場合も実質的な構成、目的及び効果は前記第 1 実施例の場合と同一であり、同一部分については同一の符号を付して説明を省略する。

この例の場合は換気扇 1 2 を動作せしめる為にガス検知器 5 0 を更に付加した例を示している。上記ガス検知器 5 0 は一酸化炭素 C O 等の濃度が高くなった時にこれを検出して換気扇 1 2 を動作せしめるものである。従って室内 4 a でガス器具や石油ストーブを使用している時に、ガス漏れや不完全燃焼等によって、室内の一酸化炭素等の濃度が上昇した時には、これを速やかに室外に排出することができる。上記目的を達成する為にガス

検知器 5 0 は入気孔 1 4 の近傍の低い箇所に配設するようにする。この他室内に温度検知器を更に付加して上記の換気扇 1 2 を、これによってもオンオフ制御してもよい。以上詳述した如く本発明は、建築物 1 を構成する外壁 2 に、間仕切壁 3 の内部に形成された通気空間 9 を建築物の外部 1 0 に連通させる為の排気孔 1 1 を形成すると共に、間仕切壁 3 に当該間仕切壁 3 が区画した室内 4 a と上記通気空間 9 を連通せしめる為の入気孔 1 4 を、上記排気孔 1 1 に対して所定間隔を置いて形成し、更に排気孔 1 1 に、通気空間 9 内の湿度が予かじめ定めた一設定値以上になった動作して、通気空間内の空気を外部 1 0 に排気すると共に、室内 4 a の空気を通気空間 9 内に取り入れる為の換気扇 1 2 を配設した建築物に於ける間仕切壁内面結露防止装置なので、①通気空間 9 内の湿度が上昇した時には、湿度感知器 1 3 がこれを検出して換気扇 1 2 を動作せしめるので、通気空間 9 内の湿った空気は排気孔 1 1 を通して外部 1 0 に排気されると共に、室内 4 a の空気が通気空間

9 内に取り入れられるので、通気空間 9 内の湿度が低下すると共に、通気空間 9 と室内 4 a 間の温度差が可及的に小となる結果、通気空間 9 内に発生する結露を防止することができ、又②通気空間 9 内の湿度が上昇する度に、室内 4 a の空気が通気空間内に取り入れられるので、室内 4 a を自動的に換気することができ、更に③換気扇 1 2 は間仕切壁 3 内に配設されているので、動作音、外気音が静かな建築物に於ける間仕切壁内面結露防止装置を提供できる等種々の利点を有する。

4. 図面の簡単な説明

添付図面第 1 図～第 3 図は本発明の第 1 実施例を示し、第 1 図は建築物内に区画された室内を説明する図、第 2 図は間仕切壁の縦断面図、第 3 図は断面を含む間仕切壁の表面図、第 4 図は第 2 実施例を示し、間仕切壁の断面図である。

尚、図中 1 . . . 建築物、 2 . . . 外壁、 3 . . . 間仕切壁、 4 a . . . 室内、 9 . . . 通気空間、 1 0 . . . 外部 1 1 . . . 排気孔、 1 2 . . . 換気扇、 1 3 . . . 湿度感知

器 14 . . . 入気孔 を示している。

特許出願人

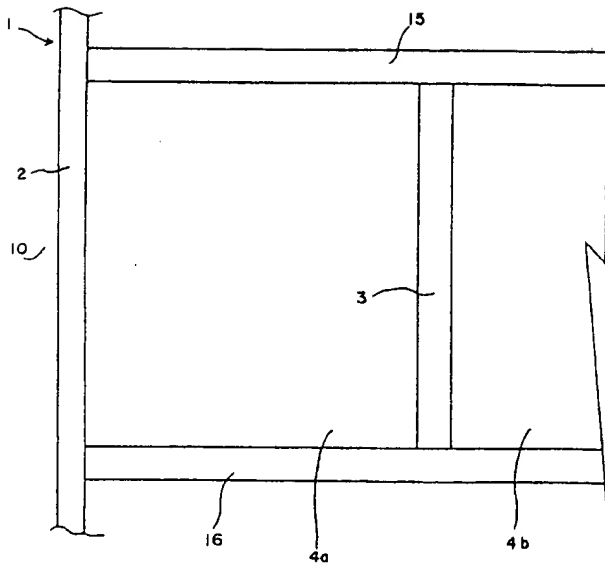
増 野 義 明

代理人 弁 理 士

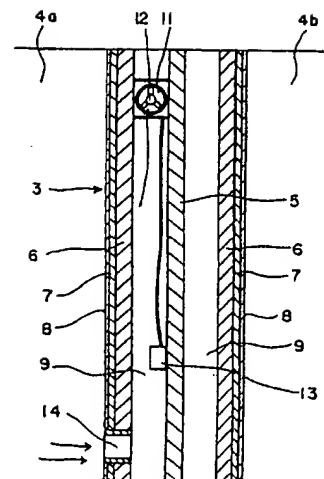
池 田 宏



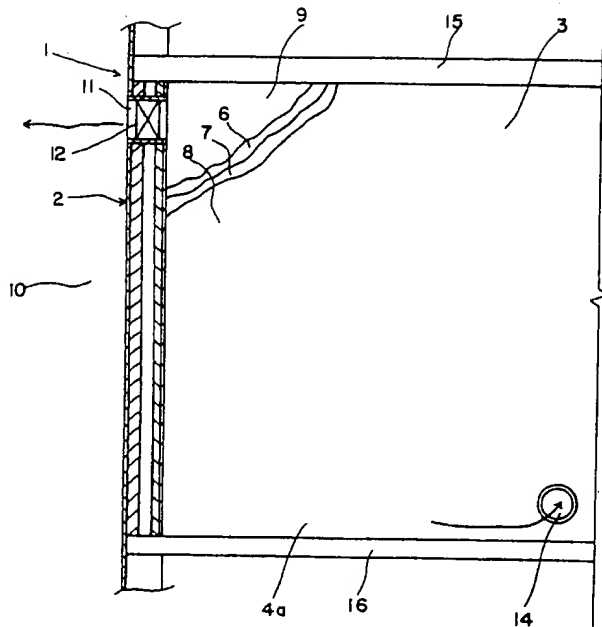
第 1 図



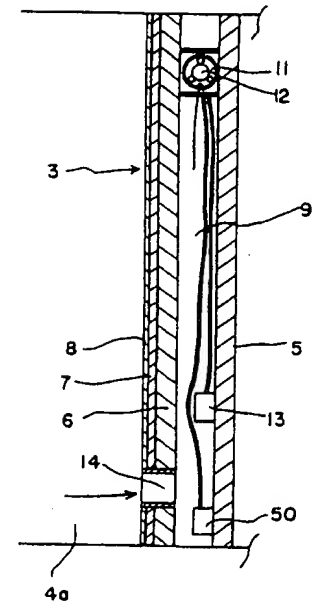
第 2 図



第 3 図



第 4 図



手続補正書 (方式)

昭和60年4月19日

特許庁長官 志賀 学 殿

1 事件の表示

昭和59年特許願 第248858号

2 発明の名称

建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 茅ヶ崎市富士見町1-7

氏 名 増 野 義 明

4 代理人

住 所 神奈川県厚木市飯山3132番地8

氏 名 第7835号 弁理士 池田 宏

TEL 0482-47-7555

5 補正命令の日付 昭和60年3月26日

6 補正の対象

明細書の「発明の詳細な説明」の欄

7 補正の内容

別紙添付の補正明細書の通り

明 細 書

1. 発明の名称

建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置

2. 特許請求の範囲

建造物1を構成する外壁2に、間仕切壁3の内部に形成された通気空間9を建造物の外部10に連通させる排気孔11を形成すると共に、間仕切壁3に室内4aと上記通気空間9を連通せしめる為の入気孔14を、上記排気孔11に対して所定間隔を置いて形成し、更に排気孔11に通気空間9内の湿度が予かじめ定めた一定値以上になった時に作動して、通気空間内の空気を外部10に排気すると共に、室内4aの空気を通気空間9内に取り入れる為の換気扇12を配設したことを特徴とする建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置に係り、更に詳しくは鉄筋鉄骨コンクリート造りの建物の室内間の間仕切壁内に形成された通

気空間内の湿度が予かじめ定めた一定以上になった時に、この通気空間内の空気を外部に排気すると共に、室内の空気を通気空間内に取り入れて、可及的に室内と間仕切壁内通気空間の温湿度をバランスさせて間仕切壁内面に発生する結露を防止するように成した建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置に関する。

従来、壁面内に発生する結露を防止する為の手段は種々提案されている。例えば特開昭52-23810、特開昭52-111212、特開昭58-48045、特開昭58-159448、特開昭57-15740、特開昭57-24748、各号公報に掲載された手段である。

これら従来提案された結露防止装置はそれぞれ種々の利点を有するものではあるが、ほとんどのものは直接外に面した外壁か又は室内に面した内壁の内面に於ける結露防止装置であり、これらの壁面内に形成された通気空間の換気は建造物の外部から外気を取り入れて建造物の外部に排気している。従ってこの技術を建造物の内部を区画する為の間仕切壁内に形成されている通気空間の結露防

壁内面結露防止装置であってその目的とする所は、①間仕切内に形成された通気空間内の結露を防止することができると共に、②室内の換気を自動的に行なうことができ、更に③動作音が静かな建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置を提供するにある。

次に添付図面第1図～第3図に従い本発明の第1実施例を詳述する。

図中1は鉄筋鉄骨コンクリート建造物を示し、2は建造物の周囲に配設された外壁であり、建造物1の内側と外側を区画しているものである。上記外壁2によって外部と区画された建造物1の内部は、通常間仕切壁3によって複数の室4a、4bに区画されている。例えばマンションの互いに隣接する隣同志の間の仕切がある。上記間仕切壁3は第2図に示すように中央に堅固に形成された中央区画壁5が配設されており、該中央区画壁5の両側には、例えばウレタン等で形成された保温壁6、6下地壁7、7仕上げ壁8、8が順次配設されている。上記中央区画壁5と、保温壁6、6

止にそのまま通用した場合には、通気空間と間仕切壁が区画している室内の温度差は換気をすればする程増大することになる。特に室内を空調している場合には上記温度差は増々大きくなってしまふ。このように壁面を挟んで一側と他側に温度差がある場合には結露しやすいので、通気空間内の結露を防止する為には、通気空間内の湿度が上昇した時に、通気空間内の換気を行なうと共に、通気空間内と室内の温度差を可及的に小さくすることが望ましい。

本発明は述上の点に鑑み成されたものでありその要旨とする所は、建造物を構成する外壁に、間仕切壁の内部に形成された通気空間を建造物の外部に連通せしめる為の排気孔を形成すると共に、間仕切壁に当該間仕切壁が区画した室内と上記通気空間を連通せしめる為の入気孔を、上記排気孔に対して所定間隔を於いて形成し、更に排気孔に通気空間内の湿度が任意の設定値以上になった時に作動して通気空間内の空気を建造物の外へ排気する為の換気扇を配設した建造物に於ける間仕切

間は所定距離置かれ、それが通気空間9を形成している。

上記は間仕切壁3の一例であり、本発明は間仕切壁3内に形成されたこのような通気空間9内の結露を防止する為に次のように成したものである。

即ち、通気空間9と接している外壁2に、より具体的には間仕切壁が区画されているあたりの外壁2に、建造物1の外部10と通気空間9を連通し、通気空間9内の空気を外気へ排出する為の排気孔11を形成し、ここに換気扇12を配設する。上記換気扇12は通気空間9内の湿度が予かじめ定めた一定以上になった時に動作せしめられるものであり、通気空間9内に配設された湿度感知器13によってオン・オフ動作せしめられる。次いで間仕切壁3上に、通気空間9と室内4aを連通させる為の入気孔14を形成する。上記入気孔14を形成する位置は、通気空間9内の換気を十分に行なうことができるようにする為に、排気孔11に対して所定の間隔を置いて形成する。例

えば排気孔11を通気空間9と接する壁面2の上部に形成し、入気孔14は室内の奥の方に形成する例を上げることができる。

尚、図中15は天井16は床面を示している。

次に上記実施例に基き動作を説明する。

本発明の結露防止装置は上記のように構成したので通気空間9内の湿度が予かじめ定めた一定以上になった時にはその湿度を湿度感知器13が感知して、換気扇12を自動的に動作せしめることができる。換気扇12が湿度感知器13の検出によって動作せしめられると通気空間9内の湿った空気が排気孔11から外部10に排気されると共に、通気空間9内には入気孔14内を通して室内4aの空気が流入する。このようなメカニズムによって通気空間9内の湿った空気が外部に排出されて通気空間9内の結露を防止するものであるが、本考案の結露防止装置の場合には上記のように通気空間9内に室内4aの空気を送給するものであるから、結露防止効果が大である。

何故ならば、一般に結露は壁面を挟んだ側と他

内に配設されているので、その動作音及び換気扇を通しての外気音が室内4aに伝わる間に間仕切壁によって吸収され消音されるので、静かである。又換気される度に、室内のダストが通気空間9を通して排出されるので、マンション等のダストに由来するゼンソク病等を予防する場合にもよい。

次に添付図面第4図に従い本発明の第2実施例を説明する。

この例の場合も実質的な構成、目的及び効果は前記第1実施例の場合と同一であり、同一部分については同一の符号を付して説明を省略する。

この例の場合は換気扇12を動作せしめる為にガス検知器50を更に付加した例を示している。上記ガス検知器50は一酸化炭素CO等の濃度が高くなった時にこれを検出して換気扇12を動作せしめるものである。従って室内4aでガス器具や石油ストーブを使用している時に、ガス漏れや不完全燃焼等によって、室内の一酸化炭素等の濃度が上昇した時には、これを速やかに室外に排出

側の温度差が大きい時に生じやすい。従って室内4bを空調した場合には、室内4aの温度と通気空間9内の温度差が大となるので、この温度差を解消しなければ、通気空間9内の換気をいくらしても根本的な結露防止にはならない場合が多い。

所が本考案の場合には通気空間9内に、室内4aの空気を送給するものであるから、通気空間9と室内4a間の温度差を可及的に小さくすることができる。その為に通気空間9内に発生する結露を根本的に防止することができるわけである。

又、上記のように室内4aの空気を通気空間9内に送給するという事は、室内4aの換気にも役立つ。室内4aを空調する時には一般的に、室内4aを閉め切って行なう場合が多い。その為に室内4aは換気不足になりやすいが、上記のように通気空間9内の湿度が上昇する都度換気扇12が動作せしめられて室内4aの通気を通気空間9内に取り入れるので、室内4aは自動的に換気されるようになる。更に上記換気扇12は間仕切壁3

することができる。上記目的を達成する為にガス検知器50は入気孔14の近傍の低い箇所に配設するようにする。この他室内に湿度検知器を更に付加して上記の換気扇12を、これによってもオンオフ制御してもよい。以上詳述した如く本発明は、建造物1を構成する外壁2に、間仕切壁3の内部に形成された通気空間9を建造物の外部10に連通させる為の排気孔11を形成すると共に、間仕切壁3に当該間仕切壁3が区画した室内4aと上記通気空間9を連通せしめる為の入気孔14を、上記排気孔11に対して所定間隔を置いて形成し、更に排気孔11に、通気空間9内の湿度が予かじめ定めた一設定値以上になった動作して、通気空間内の空気を外部10に排気すると共に、室内4aの空気を通気空間9内に取り入れる為の換気扇12を配設した建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置なので、①通気空間9内の湿度が上昇した時には、湿度感知器13がこれを検出して換気扇12を動作せしめるので、通気空間9内の湿った空気が排気孔11を通して外部10

に排気されると共に、室内4aの空気が通気空間9内に取り入れられるので、通気空間9内の湿度が低下すると共に、通気空間9と室内4a間の温度差が可及的に小となる結果、通気空間9内に発生する結露を防止することができ、又②通気空間9内の湿度が上昇する度に、室内4aの空気が通気空間内に取り入れられるので、室内4aを自動的に換気することができ、更に③換気扇12は間仕切壁3内に配設されているので、動作音、外気音が静かな建造物に於ける間仕切壁内面結露防止装置を提供できる等種々の利点を有する。4. 図面の簡単な説明

添付図面第1図～第3図は本発明の第1実施例を示し、第1図は建造物内に区画された室内を説明する図、第2図は間仕切壁の縦断面図、第3図は断面を含む間仕切壁の表面図、第4図は第2実施例を示し、間仕切壁の断面図である。

尚、図中1...建造物、2...外壁、3...間仕切壁、4a...室内、9...通気空間、10...外部、11...排気

孔、12...換気扇、13...湿度感知器、14...入気孔を示している。

特許出願人

増野義明

代理人 弁理士

池田 宏